

令和6年度 阿南町立阿南第二中学校 学校自己評価のまとめ

(生徒・保護者・職員による5段階の平均得点)

評価項目	実績・成果・課題など	平均点
授業改善	ICT機器を活用した学習形態や追究の工夫がなされている。今年度から始まった小中一貫教育校としての強みを生かし、小中職員が合同で授業改善のための研究を行ったり、相互に授業を見合って課題などについて議論する時間を設けたりするなど、授業改善に努めている。ねらいを明確にし、それに沿った振り返りを大切にすることや、少人数の利を生かした授業に引き続き取り組んでいく。	3.7
学びへ向かう態度	学習に向かう姿勢は主体的で、計画的な学習や自己選択決定型の家庭学習を行う姿が見られる反面、家庭学習で何をすれば良いか悩んだり、自分の課題と向き合えない生徒も個々には存在する。来年度はすべての教科や家庭学習を含め、生徒自らが自身の成長や解決への見通しをもって追究の仕方を工夫したり、粘り強く追究したりする姿を目指していきたい。	3.7
探究的に学ぶ	1年生は地元のアイスクリュー販売に興味を持ち、2年生は新野のいちご生産について興味を持ちそれぞれ自分達で課題を設定し追究している。3年生は3年間打ち込んだ新野地区を活性化させるために地域の子どもたちが集える場の提供を実現する活動を行っている。これらの姿から来年度も地域の人、物、ことを題材とした探究的な学習を充実させていきたい。	3.6
セルフマネジメント	マネジメントノートの活用については昨年より若干改善が見られたが、見通しをもち、優先順位を考えたり方法を工夫したりしてよりよい生活を行うことについて、改善の余地がある生徒もいる。方法や手立てを検討し、小中の連携も意識した活動を通して、環境や状況に応じたセルフマネジメントができるようにしていきたい。	3.1
協働して取り組む	様々な場面で協力し合う姿が見られた。授業でも教え合ったり、相談し合ったりしながら協働的な学びが充実してきている。また、小中一貫教育校として小学生とともに生徒会児童会活動や学校行事などに協働して取り組む姿も見られる。今後さらに人数が減っていく中で、どのように協働して取り組む活動や学習場面を確保するか、またそれらを持続させていくかが課題である。	3.8
心を通い合わせる	全校の仲がよく、協力して生活できているが、他者の心情に寄り添えず自分本位な考えで行動してしまい人間関係を損なう場面もあった。また自分から進んで挨拶できなかつたりする姿が見られるので来年度への課題にしたい。	3.4
勤労奉仕	各自が責任をもって分担場所の清掃に取り組んでいた。準備・片付けも全員で協力して行うことができた。決まったところが終わった後、気を利かせたり全体を見渡して動いたりすることがなかなかできなかったため、そのようなことができる場面を増やしていきたい。	4.1
郷土愛	紅樹山下草刈り、郷土芸能子ども教室、地域環境美化活動等で地域の方や学校協会の方と一緒に活動することができた。また職場体験学習、福祉体験学習、行人様鉄下駄レースなども実施することができ、これまでより地域で学ぶ、地域に学ぶ機会が多かった。	4.1
体力向上	小中一貫教育校となり、小学校が行っている朝マラソンを今年から中学校でも取り入れた。また、体を動かすレクなども継続している。部活動を行う日が減る冬場の体力向上についてが今後の課題である。	3.5
健康安全	感染症予防の対策が習慣化して継続されており、感染症の流行はなかった。防災意識に関しても計画的な各種訓練に真剣に取り組むことができた。しかしメディア利用時間が長く就寝時間が遅いなどの生活習慣に関する課題や、防犯意識の低さも一部で見られた。	3.5

学校運営	組織・校務分掌	小中一貫教育校としてスタートした今年度は、小中で同じ校務分掌の係職員同士が連携し、足並みをそろえて係り運営を行うことにより、昨年よりも手厚く運営することができた。特に、ベテラン職員が多い小学校から本校の若い職員が学び活用する姿が見られた。小中の職員室をオンラインでつなぎ緻密に連絡を取り合うなど ICT の活用も充実してきた。
	連携・情報発信	ホームページの随時更新と、各種通信の定期的な発行により、適時性のある情報発信ができた。またクラスルームとオクレンジャーを適宜利用することができた。引き続き、ICT機器を上手く使った情報発信に努めていきたい。小中一貫化2年目となる来年度は、今年度の反省を活かしつつ児童会・生徒会活動や学校行事での小中合同参加、交流や連携を進めていきたい。